

令和元年度 四国防災トップセミナー開催

テーマ：切迫する南海トラフ地震に備える～必ず来る大震災に、今できる事前の備えとは～

目的：四国内の市町村長と四国南海トラフ地震対策戦略会議メンバーが一堂に会し、防災に関する講演の拝聴や意見交換等を通じて、見識を深め、地域防災力の向上を目指す。
(平成12年度から開催しており、今回が20回目の開催)

- 日時：令和2年1月30日（木）14:30～17:20
- 場所：かがわ国際会議場（高松シンポルタワー（タワー棟）6階）
- 出席者：約 320名
(内、市町村の首長62名、代理25名
四国南海トラフ地震対策戦略会議メンバーの構成員17名、代理21名)
- 報道状況：K S B瀬戸内海放送、四国新聞



四国防災トップセミナー開催状況

◆講演①

『平成30年北海道胆振東部地震からの教訓』

北海道 厚真町長 宮坂 尚市朗 氏

- ・行政、民間を問わない支援機関との連携により、被災から4日間で捜索活動を完遂させる等、迅速な応急対応を実施
- ・応援部隊が最大限の力を発揮できるように、受援体制を整えておくことが重要
- ・様々な事象に対し、対応力・抵抗力を持つために以下が重要と述べられた
 - ①職員へのレジリエンス研修の実施
 - ②災害対応専門の職員を配置
 - ③職員や住人へのメンタルヘルスに関する取り組み

◆講演②

『ホンネとホンキで南海トラフ地震を乗り越える』

名古屋大学 減災連携研究センター長・教授 福和 伸夫 氏

- ・都市部への人工集中、湾岸に立地する重要施設、BCPを策定していない中小企業等、地震に対し、脆弱な社会構造を指摘
- ・南海トラフ地震の臨時情報を活かすためには、事前の対策が重要
- ・国民が、国土の特徴を理解し、地震に対する備えや対処の仕方を考えることが必要

◆意見交換

南海トラフ地震を乗り越えるため、平時から突発地震に備えることの重要性や、南海トラフ地震臨時情報を活かした災害対応について意見交換を行った。

○コーディネーター

香川大学 危機管理先端教育研究センター長・特任教授 白木 渡 氏



宮坂 尚市朗 氏

福和 伸夫 氏



意見交換実施状況